

北海道高等学校教育研究会

第31回大会要項

期 日 平成6年1月12日(水)・13日(木)
主 催 北海道高等学校教育研究会
後 援 北海道教育委員会
札幌市教育委員会
北海道高等学校長協会

会 長 あ い さ つ

北海道高等学校教育研究会

会 長 染 谷 昌 志

いつの間にか、周囲に冬の気配が感じられる季節となりました。本年は社会、経済の変動や、冷害による不作とともに、本道を中心に南西沖地震による大きな被害がありました。ご心痛の多い会員もおられる中、ぜひ明るく希望に満ちた年の訪れることを願うものです。

ここに高教研の第31回大会のご案内を差し上げることになりました。本年度は高教研30年からの大切な第一歩の大会の開催に向けて、現在諸準備が進められております。

さて、本大会の全体集会には、お二人の講師によるご講演を頂きますが、本年度は、これからの社会の在り方や人間の生き方について考えるとき、「進歩」とか「成長」をどう位置づけるかを取り上げることになりました。

「テクノロジーの進歩はあまりにも急速すぎ、私たち人間から真の自然を奪いつつある。私たち人間をここまではぐくみ、自然界のすべての種のなかでもっとも適応力の高い存在にしてくれたのは、ほかならぬその自然ではなかったか。さらにいけないのは、それが環境を破壊し、若者をひ弱に変えていることである。」

これは本大会講師であるニコル氏のエッセイ(1990年)からの引用です。ニコル氏は世界各地での自然や野生動物の保護にかかわる活動をされ、現在長野県黒姫に居を定められています。氏はさらに、「どうか、目の前のその画面から離れて、野外に出て行ってほしい。あなたがたの全感覚を、あなたがたの深い知覚のすべてを使わなくてはならないような場所に。」と述べられています。ニコル氏の日本語によるご講演から、多くのご示唆を頂けるものと思います。

次のテーマは人間の、それも若者の成長、発達について取り上げていくものです。幼児から年齢が上がるにつれて、「あそび」から「勉強」、そして「仕事」へと移行するという考え方があります。この三つを成長、発達の段階として切っていくことに、問題があるように思われます。ここで、北海道大学教育学部の若井邦夫教授から、高校生をあえて「子ども」と位置づけ、幼児・児童の課題に見える「必要とあそび」のかかわりについて、高校教育へのご提言を頂きます。

若井先生によりますと、幼児から少年、青年へと、年齢を経るに従って、自発性、主体性が失われてきていると思われる。子どもが発達するためには、あそびにも学習にも打ちこんでやるという、自発性の約束されることが必要になるとされています。さらに現在の学習上の課題として、(1)学習やあそびの活動は教室の壁では区切れない、(2)思考の流れはチャイムベルでは区切れない、(3)思考の広がりや教科の枠では区切れない、という三点が強調されております。ご講演をご期待しているところです。

本大会の第二日目には、例年のように教科部会が、それぞれの会場で開催されます。各部会において、新しい時代に対応する高校教育の在り方についての研究と実践が、一段と深まっていくものと確信しております。本大会の開催に当たって、関係各位のお力添えに心から感謝し、会員の皆さまの多数のご参加をお願い申し上げます。

第1日目 全体集会 平成6年1月12日(水)

場 所 北海道立札幌中島体育センター別館

(札幌市中央区中島公園1番5号
地下鉄南北線 中島公園駅・幌平橋駅より徒歩10分)

日程・講師	9:00~10:00	受 付
	10:00~10:30	開 会 式
	10:30~12:30	講 演「自然と人間」 作家 C・W・ニコル氏
	12:30~13:30	昼 食・休 憩
	13:30~15:30	講 演「子どもが発達するとき—必要とあそびのあいだ—」 北海道大学教育学部教授 若 井 邦 夫 氏

演 題 「自然と人間」

作 家

C・W・ニコル氏
(Clive William Nicol)

(プロフィール)

- 1940年 英国の南ウェールズに生まれる。
1961年 カナダ北極地方デボン島探検隊の越冬隊員となる。
1963~67年 この間、カナダ水産調査局北極生物研究所の海洋哺乳類の技官として、6回の北極遠征へ参加。海洋哺乳類の調査研究にあたる。
1967~69年 エチオピア帝国政府野生動物保護省の猟区主任管理官に就任。シミアン山岳国立公園を創設し、公園長を務める。
1972~76年 カナダ水産調査局淡水研究所の主任技官となる。
1975~76年 沖縄海洋博覧会でカナダ館副館長を務める。
1978年 カナダ芸術協会の助成金を得て、和歌山県太地町に1年間住み、日本の捕鯨歴史を調査する。
1989年 カナダ商工会議所よりカナダと日本の親善のために最も貢献したカナダ人として表彰される。

環境庁「環境と文化に関する懇談会」委員(1989年)、「長野県水環境保全懇談会」委員(1990年)、「屋久島環境文化懇談会」委員(1991年)、「開高健賞」選考委員(1991年~)、国際松濤館空手道連盟顧問(1993年~)等を務める。

著 書 エッセイ集「野性との対話」(講談社)
短編小説集「小さな反逆者」(福音館書店)
小説「魔女の森」(講談社) 対談集「おいしい博物誌」(清水弘文堂) ほか
子供向けの絵本など多数

演 題 「子どもが発達するとき—必要とあそびのあいだ—」

北海道大学教育学部教授

若 井 邦 夫 氏

(プロフィール)

- 昭和10年 新潟に生まれる
昭和34年 新潟大学教育学部卒
昭和37年 東京大学教育学部卒
昭和42年 東京大学大学院教育心理学博士課程修了
昭和42年 北海道大学教育学部講師
昭和44年 同上 助教授
昭和47年
~49年 ハーバード大学客員研究員
昭和53年 神戸大学教育学部助教授
昭和57年 同上 教授
昭和59年
~60年 文部省在外研究員(Harvard大学、Edinburgh大学)
昭和63年 国際交流基金派遣研究員(Cornell 大学)
平成元年 北海道大学教育学部教授
同学部附属乳幼児発達臨床センター長
平成4年 ポートランド州立大学客員教授(Summer Session)

兵庫県立幼児教育センター家庭教育巡回相談員・
ハガキ通信相談員
西宮市幼年教育調査会委員
芦屋市教育委員会家庭教育広報紙編集委員

著 書 「幼児教育心理学」(小林出版)
「乳幼児の発達と心理」(三晃書房)
「乳幼児の精神衛生と発達」(川島書店)
「児童心理学」(有斐閣)
「家族心理」(有斐閣)
「学習心理学」(新曜社)
「教育の壁を開く」(明治図書)
「文化と思考」(翻訳:サイエンス社)
「発達心理学概論I・II」(翻訳:誠信書房)
その他 多数